座間市立東中学校研究発表会　令和４年11月２日

Ⅰ 主に「知識・技能」に関する授業内評価の方法と活用

定着させたい知識・技能の明確化（授業内評価を行う上での土台づくり）

ねらい

単元ごとに学習目標を提示し、習得したい知識・技能について「何を学ぶのか」「どう学ぶのか」「なぜ学ぶのか」を意識して活動に入ることで、**学習のゴールやプロセスに対して生徒自身が具体的なイメージを持てるようにする。**
また、生徒との目標の共有を通じて教師自身も学習における評価のポイントを明確にする。

楽しみながら主体的に行える活動場面の設定（授業観察を中心として）

ねらい

知識や技能の習得においては、「ただ覚える」「くり返し練習する」といった学習方法に傾きがちだが、活動そのものに**生徒が楽しさを感じながら前のめりに取り組んでいける場面（内容、雰囲気等）を作り出す。**

具体的な実践例

◎意図的に「?」をつくる（教師の発問や生徒からの発言を通して）

→機械的な作業に陥りやすい知識・技能の学習活動だからこそ、より意識して生きた授業にするために、生徒の表情や関わり合いに目を配り、有意義な発言を積極的に拾い上げ、対話的で探究的な雰囲気を！

◎ICT機器の活用（デジタル教科書等）

→英単語や漢字の習得等において、パッと画面の切り替わる機能を生かし、リズミカルで楽しく活発な活動にする。全員一斉、グループごと、個人、など生徒の様子や難易度により発声方法を変えてみると効果的！

実感的で継続的な振り返り場面の設定（テストや記録物を中心として）

ねらい

Chromebookの有効活用や振り返り活動の習慣化により、「評価される」のではなく**「自分で自分を評価・分析する」という意識を生み出し**、積極的かつ活用可能な知識や技能の習得につなげる。

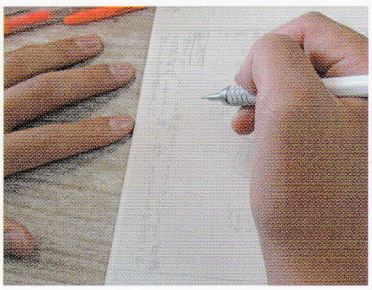
具体的な実践例

◎Chromebookの有効活用

→QuizletやKahootなどのオンラインクイズ、GoogleFormsによる小テストを活用することで、瞬間的に結果が反映されるために、生徒が意欲的に、ゲーム感覚で学習活動を行うことができる。回答のスピード・点数・集計などが一瞬で共有でき、授業者が生徒の苦手な分野等を確認することもできる。

◎振り返り活動の習慣化

→短時間での小テストをこまめに実施することは、点数等に表れやすく生徒が自らの達成度を自覚しやすい。さらに、その結果をただの点数で終わらせず、「どこでつまづいたのか」「どんなことができるようになったのか」を意識させるための「解き直し」「考え方の共有」「自己評価記述」などの振り返り活動に有効につなげていく。



（単元を超えた長期的なスパイラルを作り出すことによって、多様かつ実践的な知識・技能の習得の達成につながる）